

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：長野県根羽村

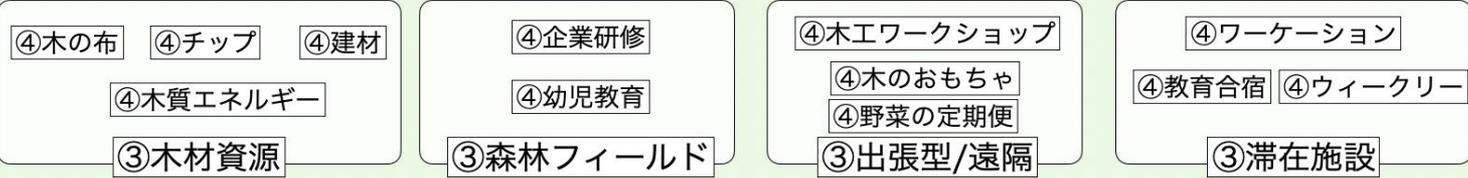
活動地域：根羽村・矢作川流域

活動におけるテーマ・キャッチコピー

流域に住む人々の豊かさを保つための、持続
する源流の山村づくり

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

⑤ 森林資源を活用した雇用の創出と関係人口の創出



② 森林/山村資源を活かした新たな産業創出

～NEVER FOREST PROJECT～

① 流域沿いの人々が「村ごこちよく」過ごせる村

② 森林/山村資源を活かした人づくり

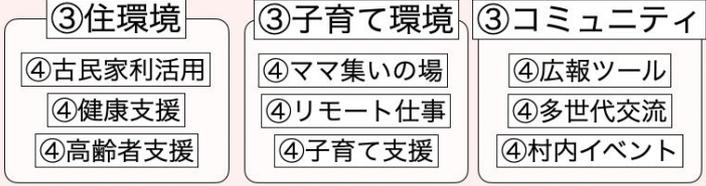
～地域を豊かにする田舎技術伝承～



⑤ 「古き良き」と「新しい」の融合による文化の継続

② 森林/山村資源を活かし暮らし環境づくり

～豊かに暮らせるプラットフォーム～



⑤ 村内の共助関係構築による住み心地向上

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

- 「木の布」プロジェクト立ち上げ、株式会社いんどり・株式会社 和紙の布と連携
- 「木の布」を活用し、愛知県安城市とエコバッグの共同開発
- 若手主体となる中間組織の立ち上げ（2020年8月 一般社団法人ねばのもり 立ち上げ）
- 森林保全をテーマとしたイベント「あつまれ ねばのもり」を安城市で開催（2020年10月）
- 地域の学校を巻き込んだ、森のテーマパーク作りの実行
- 森林体験・木育をベースとした、外部からの修学旅行の受け入れの実施
- 森林での企業研修の受け入れの実施
- 根羽村SDGsサイトオープン
- 働き方の多様性・子育て環境向上のためのテレワーク /コミュニティ拠点の整備
- 愛知県安城市からの山村留学の受け入れ実施
- 少人数自治体・役場体制の実現のための役場組織改革
- 地域の余った野菜を活用した野菜の定期便での関係人口創出
- 動画を活用した村内広報による施策認知拡大
- 地域材を活用したウッドデッキ商品の開発、地域外への展開
- 地域の森で何かやりたい人をマッチングするプラットフォームの開発

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	木から織物をつくる“木の布”プロジェクト		
	概要	<p>～KINOFの原料の一種は、木からできた糸「木糸」。和紙の製法を元に開発された希少な技術を用いてつくられた糸です。杉の間伐材を粉碎してチップにし、植物性の繊維であるセルロースを抽出。ここに強度を増すために麻を加え、均一に伸ばすとスギの木による和紙ができます。これを細く裁断してできるのが木糸。この糸を横糸に、国産木綿を縦糸として織り合わせたものがKINOFの布になります。現在はタオル・マスクの商品を展開、今後様々な商品で人々の日常に KINOFの利用シーンを通じた環境保全活動を進めていきたいと考えています。～</p>		
	課題・ボトルネック	生産量・生産プロセスの環境配慮強化	力を借りたい人物・企業像	販路開拓・商品開発パートナー

2	事業名	教育 × ワークーション 親子でそれぞれ山村を楽しむ「ワデュケーション」		
	概要	<p>～コロナによるリモートワークの普及により、働きながら地域への滞在が物理的に可能となりワークーションへのニーズや気運が高まっている。一方でユーザーヒアリングをする中で、ワークーションの一番の課題が子育てとの両立であることが明らかになっている。山村での滞在を通じて、親は日中リモートワークをし、子供を現地の団体で預かり自然体験をさせる教育 × ワークーションのプログラムを 2021年度から実施する予定～</p>		
	課題・ボトルネック	～受け入れ体制整備～	力を借りたい人物・企業像	～幼児教育のプロフェッショナル～

3	事業名	山村での日常発信から環境に対する意識を高める「とあるねば」		
	概要	<p>～2020年5月から根羽村に移住してきた映像カメラマンと連携し、地域の日常に起きている様々なできごとをドキュメンタリー的に撮影をし、2020年は村内のケーブルテレビにて放映してきた。その中で、日常にこそ村の価値があり、村が日常的に行っているサステナブルな活動が潜んでいるため、2021年度よりWEBサイトをオープンし、映像 + 文章を通じて環境に対する意識を高める</p>		
	課題・ボトルネック	～特になし～	力を借りたい人物・企業像	～特になし～

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 地域プラットフォームを発展させたり、新たなステークホルダーを巻き込んだりする過程で、どんな変化や気づきがあったかを記載してください。

「木の布」という存在を知ったことで、森林資源の活用方法についての視野が広がった。

地域のコンセプトを描く！

- 地域のありたい未来を共有・深掘し、地域版マナダラをブラッシュアップしていく過程で、どんな変化や気づきがあったかを記載してください。

森林9割、公共交通のアクセスが悪い環境の中で、自然と調和して生きているこの村のあり方自体が、SDGsであることに気づいた。

事業のストーリーを語る！

- 「事業のタネ」を具体化する過程で、どんな変化や気づきがあったかを記載してください。

森林の活用方法をより消費者目線に寄り添うことで、可能性が広がることを実感している。

地域の目標を立てる！

- 地域の目標や成果指標を見直したり、更新する過程で、どんな変化や気づきがあったかを記載してください。

大きく何かを行うこと、大胆に変えるのではなく、小さな一歩の積み重ねが一番持続性のある活動である。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 2ヶ年の取組全体を通して、ボトルネックとなったこと、困ったことや難しかったこと、新たに見えてきた課題などを記載ください。
- 地域内循環という観点でエネルギー・ゴミ等の施策を実行するための住民の意識改革には時間がかかる
- 地域内におけるプレイヤー不足。想いのある人の多くが自治体職員であるため、実行者が少ない
- 経済的継続性と社会的意義の両立をするためのプロジェクトデザイン力の難しさ、

今後の展望

- 今年度のチャレンジ、ボトルネック・課題などをふまえ、今後、どのようなことにチャレンジしていきたいかを記載ください。(スペースが限られますので、優先的にチャレンジしたいことに絞って記載ください)

- 「木の布」を新しい交流ツールとして、流域交流を推進
- 森林保全をテーマとしたイベント「あつまれ ねばのもり」の継続実施
- 流域自治体との連携の強化
- 事業のタネに書いた内容の実行
- 教育文脈の強化による、移住者の増加と定住者の住み心地の向上
- テレワーク/コミュニティ拠点の運用による定住者の住み心地向上
- 少人数体制での攻めの施策ができる自治体への組織変革の実行